

市議会だより



平成19年度 一般会計・特別会計補正予算などを可決



藤枝東イレブン (国立競技場)



成人式 (大洲中学校)



消防出初め式での一斉放水 (蓮華寺池公園)



準優勝報告会 (藤枝駅前)



流通経済大柏との決勝戦 (国立競技場)

11月市議会定例会

11月市議会定例会は、11月22日から12月18日までの27日間の会期で開催されました。

本会議1日目 (11月22日)

市長提出議案19件が上程され、提案理由の説明が行われました。

本会議2日目 (12月5日)

上程議案19件の質疑を行った後、各所管の委員会に付託されました。

次に、8議員による一般質問が行われました。

本会議3日目 (12月6日)

2日目に引き続き、8議員による一般質問が行われました。

本会議4日目 (12月18日)

各所管委員会に付託された議案19件の審査の経過と結果が報告され、採決の結果、いずれも原案のとおり可決・承認され、閉会となりました。



一般質問

(掲載は質問順です。「無会派」とは会派に属さない議員です)



増田猪佐男議員

無会派

平成20年度の予算編成と交通網の整備について

問 平成20年度の予算編成にあたり、市長の所信を伺う。

答 20年度は「第4次総合計画・後期5カ年計画」の第3年度にあたり、「ひと・まち・自然が美しく夢と活力あふれる文化の都市」をめざして、少子・高齢社会に対応した総合的な福祉施策、資源循環型社会の構築等の環境施策、生活関連社会資本の整備、教育・文化の充実などの政策課題へ取り組んでいきたい。また、21年1月1日に予定されている岡部町との合併を控え、合併が円滑に成就できるよう取り組んでいきたい。

問 平成20年度の予算編成と志太榛原地域との交通体系①小川青島線②志太中央幹線について伺う。

答 ①小川青島線は12年度から事業着手している幅員17m、延長1.142kmの幹線道路である。今年度、路盤等まで完成するので、20年度は仕上げの舗装工、植栽工、道路照明等の設置などを行い、12月には完成する予定である。②志太中央幹線については大井川町では、20年度に県道島田大井川線との交差点改良と藤枝市境の道路整備を行うと伺っている。本市における20年度の事業計画については引き続き用地買収、及び

物件補償を中心とした整備を予定している。

食の安全について

問 本市において市民から食品についての相談件数はどの位あるか。

答 市民相談室での平成18年11月から19年10月までの相談件数は5件で、相談内容は、消費・賞味期限切れ商品の販売や使用材料の原産地表示が不適切ではないか等が主なものである。

問 市立保育所の給食の食材は、どのような方法で購入されているか。

答 市立保育所の食材の購入方法は現在、毎月市の主催で児童課と市内保育所の給食担当者が献立会議を開催している。その際、基本となる献立を民間も含めた各保育所に提示し、各保育所ではその献立に基づいた給食を作り、園児に提供している。市立保育所で使用する約450食分の食材については各保育所において、食材ごとに市内業者等から購入している。



小学校における学校給食の一例



白井郁夫議員

藤和会

今後の病院経営について

問 中・長期計画をどのように評価し、一般会計からの法定外繰り出しを累積赤字額により考慮するか伺う。

答 この中期経営計画の特徴は、病院内部から自発的に策定され、改善方策も自助努力によるものである。また、一般会計からの繰り入れも基準に基づいて行う。

問 中期計画において、黒字に転換できるか。また、累積赤字の予測を100億円と予想されているが、病院経営の限界は。

答 平成20年度から5年間の計画で、3年後の平成22年度に黒字化を目指している。3年後に黒字化するまでの累積赤字の予想額は100億円だが、それを限度と考え、収支計画をシミュレーションし、赤字脱却のシナリオを検証している。

問 経営改善のためのプロジェクトチームへは、どう助言しているか伺う。

答 月に一度経営会議において、各プロジェクトチームから状況報告を受け、今後の取組みについて指導を行っている。

問 累積していく赤字は何が原因か、その対応を伺う。

答 病院経営の費用は、人件費、減価

償却費等の固定費が大きく、収入では定められた診療報酬が9割を占め、医療費の抑制策が進む中、赤字体質にならざるを得ない。また、医師不足も赤字の原因となっている。今後は中期経営計画に基づき経営改善を進めることが必須の条件と考える。

問 病院の経営をすべて院長に権限委譲してきたか伺う。

答 権限の取り扱いについて、具体的に取り決めは無く、病院運営については、院長を中心に病院が主体的に行ってきたと認識している。人事権にかかるとも、病院の意向を十分考慮する中で行ってきた。

問 医師の確保をどう考えるか伺う。

答 医師の確保対策の一つとして処遇面でのインセンティブ(意欲を刺激すること)として、人事評価制度の導入についても、今後検討して行く。

問 病院の民営化について伺う。

答 今後は地方行政特別法人化や、指定管理者制度の導入などによる経営形態の見直しが求められることから、病院経営のあり方について検討していかなければならぬと考えている。





岡村 好男議員
市民クラブ

下水道事業について

問 下水道の各地域ごとの普及率及び地域格差是正について伺う。

答 平成18年度末の各地区における下水道普及率は、稲葉地区で9%、葉梨地区で24.7%、広幡地区で7.4%、西益津地区で35.3%、藤枝地区で94.5%、青島地区で64.7%、高洲地区で0%である。

下水道事業の整備については、普及率向上のため既成市街地を中心に事業の拡張を図ったことから、地域ごとに整備状況に差異が生じている。近年の財政事情により整備が遅れが生じ、未整備になっている住民の皆様にはご迷惑をおかけしていることは否めないが、今後も計画的に整備を図るのでご理解願いたい。

問 市街化区域の下水道配管敷設外地域における合併浄化槽等への弾力的補助について伺う。

答 合併浄化槽の設置補助事業は、公共下水道・農業集落排水施設の計画区域では、国庫補助、交付金事業の対象外とされているため、下水道等が使用可能となるまでの経過措置として、市単独による補助制度の創設を検討したが、今日まで自己負担により合併浄化槽を整備した方との均衡や現在の財政状況を考えると新たな制度創設は非常

に困難であり、ご理解いただきたい。

新ごみ焼却施設建設の取組の決意について

問 11月1日の新聞報道に「組織をあげて、順調に進んでいる」との答弁については、市民の反響は様々な受け止め方であった。そこで改めて、組織をあげて、順調に進んでいるとは、具体的に何を指しているのか伺う。

答 まず組織とは市長、また志広組管理者でもある私を筆頭として、本市の最重要課題との認識のもと、志広組と協調しながら藤枝市役所を挙げて全力で取り組んでいる。用地の選定作業は、庁内に副市長を委員長、関係部長をメンバーとした「一般廃棄物中間処理施設用地選定委員会」を設置して進めている。選定委員会ではリストアップした用地について、状況の整理を行い、庁内関係部署、外部関係機関等との協議の状況を踏まえ、早期建設可能と判断される最適地の絞り込み作業を行っている。また「順調に」とは、言わば内部的な作業がこれまででは順調に進んでいるということ、ご理解いただきたい。これからの最適地を決定するまでが、本場の正念場になると考えており、慎重に、かつ全力で取り組む決意である。



高柳清掃工場



小柳津 治男議員
藤友松政会

松野市長の二期目の反省と三期目の意気込みについて

問 二期目の成果を含め、どのように総括するか。

答 行財政改革を進め、市債残高を約80億円縮減するなど、市の財政状況の健全化に努めた。その他、駅舎の改築・駅南北自由通路の整備、藤枝文学館の建設、乳幼児医療費助成の未就学児までの拡大など、様々な角度から施策を講じてきた。反面、志太の合併問題、ごみ処理場の建設問題、市立総合病院の経営問題については、皆様に多大なご心配をおかけした。

問 市立総合病院の再編について伺う。

答 現在策定中の中期計画の中で、総合質管理担当、企画経営担当、病床管理担当など、複数の副院長を設置する。平成20年4月からの機構についても、事務部及び診療技術部の改革を検討している。

問 三期目の意気込みについて伺う。

答 これまで以上に強力なリーダーシップと実務経験を活かした市政運営が求められており、その役目を担う責務があると認識している。三期目を「実行・実現」の期間と位置付け、目に見える、また実感できる成果にこだわらる中で、オリジナリティを色濃く反映した政策を推し進めていきたい。

指定管理者 瀬戸温泉「ゆびの」の実情について

問 現在の経営状況と客数について伺う。

答 昨年に比べ、原油価格の高騰に伴う光熱水費の増加と食材の仕入れ単価の上昇等により、経営状況は若干厳しくなっている。入館者数は大人10万8千623人、子供9千110人、計11万7千733人で、前年同期に比べ1千547人の増である。なお、開館以来の延べ入館者数は、87万1千145人である。

社会保険庁の年金福祉施設の整理合理化について

問 当市の「藤枝エミナス」の今後の動向について伺う。

答 年金・健康保険福祉施設整理機構に問い合わせたところ、現在、全国の年金福祉施設等を順次入札により売却を進めており、ホームページ等で物件の紹介・PRをしているが、藤枝エミナスに関しては、その後の進展はないとのことである。また、

昨年同機構から、譲渡を受ける意志の有無について意向確認があったが、その後、売却整理等についての問い合わせはない。



藤枝エミナス

一般質問



牧田 五郎議員 公明党

文化のまちづくりについて

問 市役所における組織の充実、市民参加による文化芸術振興計画の策定スケジュール、学校教育を通じて文化芸術に触れ合う機会の創出、地域資源の把握、啓発、PRなど文化のまちづくり推進体制の充実について伺う。

答 組織の充実については、前向きに検討していく。振興計画のスケジュールについては、文化のまちづくり勉強会を立ち上げ、今後、市民・専門家からなる検討組織の設置についていきたい。学校では、授業や学習の中で、観賞や体験をしており、今後も一層進めていく。地域資源の把握やPRについては、花や水辺の公園、藤枝の街や山が楽しめるプロジェクトがある。特に東海道藤枝宿をはじめとする歴史、文化資源の調査をする中で具現化に向け研究中である。

問 官、学、財一体となった取り組みについて伺う。
答 今までも官学の連携を深めてきたが、今後も大学の持つ知的資源や人材を活用し、藤枝らしい文化のまちづくりを進めていく。企業からの支援については、文化施設整備基

金の積立てなど協力頂いている。今後も企業から意見や提言を聞き、文化・芸術に関するマスタープランに位置付けていく。

問 拠点づくりの今後の進め方、方向性、考え方について伺う。

答 「拠点が果たす使命、役割」、「全市民的なまちづくりに立った位置付け」及び「施設整備までのプロセス・プラン」の3つのポイントを提示し、それを市民と共有する必要がある。

問 国民文化祭が再来年行われるが、内容、規模、受け入れ体制、市民参加や子供達の参加について伺う。

答 今は開催規模の詳細はわからないが、藤枝、岡部の魅力・よさを最大限生かし、全国から多くのお客様が両市町を訪れてくれるよう事業展開していく。また、花や緑などの豊かな自然やお茶を生かした心温まるおもてなしでお迎えする体制の確立に向け、今後、検討していく。子供達や若者の参加についても広く呼びかけていく。

問 食文化として駅周辺の土産物店は少ないと思うが工夫は出来ないか。駅自由通路での販売についてはどうか。

答 空き店舗活用など研究していく。自由通路での販売については、常設は無理だが、イベント時などの短期間の販売については、検討していく。



杉山 猛志議員 藤和会

岡部町との合併を控えての学校教育交流について

問 自然体験交流について伺う。

答 中学生では「身近な河川の水質」をテーマに、朝比奈川について調査を行う学校もあった。今後更に、岡部町の子供たちと交流を進めていきたい。

問 公共施設の視察研究や防災意識の向上について伺う。

答 視察研究については、社会見学で岡部町にあるリサイクルセンター、バスターミナル等利用している学校がある。岡部町の小学校では、市内の浄化センター・清掃工場・消防署等を社会見学等で利用している。また、防災意識向上にも努力していく。

商工業と農業の地域ブランドの確立について

問 当市の地域ブランドの状況と発信状況、PRの取組みと効果を伺う。

答 地域のイメージとして「日本一の藤の里・元祖サッカ一の街」、観光資源は「蓮華寺池公園・藤枝花火大会・藤枝大祭り」がある。観光パンフレット等は、他市町へのPRが不十分と認識している。今後、PRエリアや発信部数等十分な検討をしていく。

問 商工会議所との調整と藤枝ブランドの推進プランはあるか伺う。
答 商工会議所女性会が、和菓子「藤

幾千代」のほか、来年度「スカーフ」に取り組むプランは、一例として各種スポーツの全国大会等で宣伝する。今後パブリックコメントなどの意見を踏まえ検討する。

問 「日本一の藤の里を目指す」取り組みのプランを伺う。

答 関係団体と連携を図る中、藤の育成や管理の充実を行い、新たな藤の関連商品の開発やPRに努め「日本一の藤の里藤枝」を目指す。

問 県内には国を代表する自動車会社等があるが、誘致について伺う。

答 優良企業の誘致は経済面・雇用面に大きな効果があり、努力していく。

問 お茶の藤枝かおりの、今後の更なるブランド化推進策を伺う。

答 若者向けに開発したペットボトルは約1月半で7万2千本完売した。今後は洋菓子店とタイアップして新たな商品を開発していく。

問 藤枝みかんタイ輸出の報道は藤枝みかん復活の兆しと考えるかどうか。
答 今回の報道は、唯一藤枝市だけに取引許可が出たもので、先人の皆様に感謝する。藤枝ブランドとして復活させ、国内外に拡大を推進し決意を新たに各機関と取り組んでいく。



蓮華寺池公園の藤棚



大石 保幸議員
公明党

駅周辺のまちづくりに関する課題について

問 駅南駐車場の使用ができなくなり、自家用車で県武道館に来館される方の駐車場対策が課題となっている。どのように考えるか伺う。

答 抜本的な解決はB・I・V・I藤枝やA・B・C街区の駐車場の完成を待たなければならぬが、近隣で臨時的な駐車場を確保できるよう努めていく。

問 空港開港後は、本市への来訪者も増えてくると思われる。駅周辺の案内表記もより見易くする配慮が必要だが、どのように考えるか伺う。

答 富士山静岡空港の開港に合わせ、特に人の目に留まる藤枝駅の観光案内板を日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国表示に変更する予定である。

問 毎年秋季に県武道館を使用して開催していた「産業祭」について、今後の計画を伺う。

答 今後は隔年開催の予定だが、来年度は岡部町との合併記念を兼ね、平成21年2月の開催を計画している。

問 駅北地区の再開発について、行政の関わりも不可欠だと思われるが、今後の方針を伺う。

答 来年度に、以前の駅前土地地区画整理事業の施行区域を対象にまち再生の方向づけを図る「市街地総合再生基本

計画」の策定を行い、駅北地区の再生に向けた検討を実施する予定である。

動物愛護への取り組みについて

問 ペットが失踪した際の土・日曜日祝日、夜間の連絡先について伺う。

答 平日と同様に市生活環境課・県中部保健所・警察署が対応している。

問 県では「動物愛護管理推進計画」を現在策定中で、平成20年3月に公表を予定している。この計画への対応を伺う。

答 計画の方針に沿って県の保健所、動物保護協会、獣医師会と連携を図り普及啓発を図っていく。

問 飼い主不明の犬やねこを保護した際、保護期間を過ぎた場合の取り扱いについて伺う。

答 県動物保護指導センターに移送して子犬・子ねこをゆずる会の参加申込者に引き取られていると伺っている。

問 動物愛護週間における市の取り組み状況を伺う。

答 ポスターを掲示して普及啓発に努めているが、愛護週間に限らず長寿犬表彰や愛護フェスティバルへの協力など年間を通して啓蒙を図っている。



遠藤 孝議員
藤和会

病院経営改善策と医師の過重労働や労働に対する対応について

問 経常収支比率の数値目標と給与費比率改善目標数値及び病床利用率向上の数値目標について伺う。

答 国として基準が示されるまでの動向などに配慮しながら精査するなかで数値目標の設定をする。

問 医師が集まる方策について伺う。

答 ☆勤務医師が職務を通じて発揮した能力や意欲・態度、業績を的確に把握し、適正な評価を行い人材育成と患者サービスの向上につなげるため、20年度から導入計画の検討を開始する。

☆女性医師の職場環境整備は休憩所や乳幼児の院内保育所など就労環境整備を図っており、今後も努力する。

☆医師不足の内分分泌科については非常勤医師の採用を考慮している等。

問 本市の勤務医の労働時間の状況は、

答 勤務医の労働時間は男性医師53.6時間/週・女性医師50.9時間/週だが自主研修、カンファレンス等は含まない。

問 10月末までの収支額を伺う。

答 繰入れを前倒しで実施したが、なお概算で5億8千万円程の赤字である。

「富士山静岡空港を核とした中心市街地等活性化について」

問 駅北地区の再開発の構想を伺う。

や市営駐車場の老朽化の課題を抱え、駅前土地地区画整理事業の施行区域(19.04ha)を対象に歩行者回遊動線を含め検討している。

問 コンベンションホールの誘致は。

答 県の施設であり、誘致には協力したい。空港周辺地域のコンベンション機能の一翼を担うため、商業や文化、スポーツ、飲食など中心市街地活性化策を図ることが大切である。

問 蓮華寺池公園付近の今後の街づくり構想を伺う。

答 歴史的な文化資源等を活用し、地域全体を屋根のない博物館として捉えるフィールドミュージウム構想を大学と連携し検討している。

問 コミュニティバスの今後の運行計画について伺う。

答 JR藤枝駅からJR六合駅までを結ぶバスの退出に伴い、期間を限定してジャンボタクシーを利用した「実証実験」を考え、自主運行バスを含めた各路線の相互活用による見直しをする。

問 駅周辺広場や公園・商店街路地などの「たばこ禁止条例」制定について

答 「藤枝市まちをきれいにする条例」を平成15年に制定し、たばこの吸殻やカン、ペットボトルなどポイ捨てを禁止しており、今後、周知徹底を図る。



蓮華寺池公園

一般質問

一般質問



百瀬 潔議員

藤和会

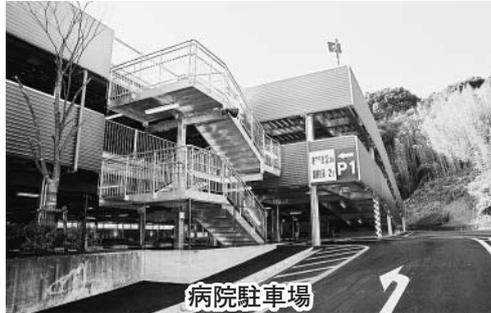
藤枝市立総合病院の
駐車場運営について

問 外来患者・見舞い者などの人数、病院滞在時間はどのようになっているか伺う。

答 1日の外来患者数は平成19年4月から9月の平均で1日あたり1千146人で、病院滞在時間については、ここ数年は調査していないが、当日、検査がある方や、診療科、当日の予約件数などによって異なり、10時から11時半のピーク時の診療の場合は、会計終了までに2時間以上滞在される患者もいる。外来待ち時間調査については、時期を見て実施していきたいと考えている。入院患者を見舞いに来る人の数と滞在時間については、平日の午後1時から5時までは各病棟のナースステーション前で面会者の氏名を記載していただいているが個人情報保護を徹底することから翌日廃棄しているので集計はできない。午後5時から8時までの面会者の管理については時間外入口において記帳をお願いしているが、拒否する方や無視する方もいて、完全な数ではない。

答 院内第一駐車場の山側平面に15台、増設した立体駐車場の2階部分159台、屋上部分171台と第二駐車場の軽四輪車スペース115台、院外の駐車場として131台の合計591台を確保してある。駐車場の借地料は月額55万2千800円である。

問 開設者の市長は、病院の予算に関してはカットしていないということであるが、外来棟増築及び立体駐車場建設工事のような多額の投資の予算のときもそうであったのか、伺う。



病院駐車場

答 病院が提案して市長が認めた。

問 平成13年以降、総患者数が減少しているが、患者増の見込みがあつて駐車場の増設をしたのか、伺う。

答 患者数というよりも、来院者の不便が非常に多く、苦情も多く、議会からの要望や市民からの要望が多くあつたため増設した。

問 県立病院などの例を参考に、有料化（条件付無料も含む。）の検討をお願いしたいが、どのように考えるか伺う。

答 基本的には現在、有料化するという考えはない。



池谷 潔議員

市民クラブ

後期高齢者医療制度について

問 広域連合を医療保険者として定めていない現実をどう判断するか。

答 ご指摘のとおり高齢者の医療の確保に関する法律には保険者という規定はないが、事務処理するための設置規程では保険料の決定や医療給付が含まれており、財政責任を持つ運営主体として広域連合が役割を果たすと認識している。

問 重要な決定事項に住民の声を具体的にどう反映していくか。

答 この制度では、広域連合議会を通し住民の意見を反映していく事になっている。県内の20の市町から首長議員が広域連合議員として運営に携わっており、機会あるごとに住民の意向を伝えていきたい。

問 高齢者の保険給付費の増加に伴う現役世代の特定保険料の料率の歯止めについて伺う。

答 ご指摘のとおり高齢者の給付が増加すればその4割を賄う現役世代の「後期高齢者支援金」の負担も増加する。特定検診や保健指導で生活習慣病の発症、合併症の進行予防に重点をおいた取り組みをし、将来に向けての医療費抑制対策をする。

問 現役並み所得者に区分される後期高齢者数の予測について伺う。

答 平成20年度被保険者数見込から、1千200人程度を見込んでいる。

問 健康増進法の特定健診以外の健康診断についてはどのようになるのか。

答 制度が発足以降の特定健診は各医療保険者が実施する。それ以外のがん検診・肝炎ウイルス検査・成人歯科健診などは引き続き市が実施する

市内のこれらの路線バスのあり方について
問 藤枝市地域公共交通会議の活動状況と今後の役割について伺う。
答 昨年は瀬戸ノ谷線の退出対策として市営バスの運行に合意した。本年は新たに3路線の退出について対応策を協議中。今後は地域生活に必要な旅客輸送手段を確保すべく実情に即した輸送サービスの実現について協議する場と考える。
問 来年4月から退出する3路線の対策について伺う。
答 藤枝忠兵衛線は現在の自主運行バスの経路の変更、大手市立病院線は自主運行バスで対応する。藤枝駅以西の中部国道線は新たな取り組みとして、ジャンボタクシーを利用した実証実験を行い、今後について検討していきたい。
問 バスが生活手段となっている利用者への対策と課題解決に向けた現状について伺う。
答 地域の実情にあわせた適切な運行形態を選択し、経路とダイヤの適正化で地域にとって利便性の高い公共交通の確保に向け、努力していく。



天野 正孝議員
市民クラブ

まちづくり再活性化について

問 駅前北口市街地再開発事業の対象事業について伺う。

答 活性化基本計画の中で検討している。来年度、駅前土地区画整理事業施行区域を対象に市街地総合再生基本計画の策定を行う。

問 景観法への取り組みについて伺う。

答 地区計画制度と比較する中、岡部町との合併後を視野に入れながら検討していきたい。

問 駅北口へのIT企業やFM放送局などの誘致について伺う。

答 直接的誘導は難しいが、立地にふさわしい都市環境の形成を図っていく。

問 藤枝商店街における一店逸品運動及び個店強化の計画状況を伺う。

答 一店逸品運動については、約50店舗の参加があり、年明けにチラシによる個店の魅力発信を行う。また、来年度から基本方針を「商店街の活動能力に応じた段階的な支援」、「やる気のある活動団体への重点的な支援」に転換を図っていく予定である。

問 観光と商業とのコラボレーションについて伺う。

答 富士山静岡空港の開港を目的にゴルフ場と宿泊施設、居酒屋とのコラボレーション等を考えている。

一般質問

〔無党派〕とは会派に属さない議員です。〔

障害者自立支援のための就業支援

問 就業率の推移と就職率向上のための市独自の施策について伺う。

答 平成19年6月現在、市内での就業率は1.3%、県では1.6%、全国でも1.55%と法定雇用率1.8%には達していない。市として、「障害者雇用促進関係課長会議」を定期開催し、雇用拡大についての研究を行っていく。

問 入札条件へ障害者雇用率を考慮することについて伺う。

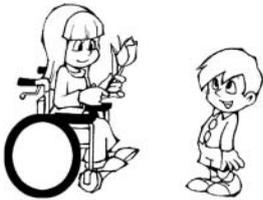
答 今年度から導入した総合評価競争入札において障害者の雇用を加点対象にしている。また、8月からは指名競争入札業者選定の審査項目に障害者雇用を追加する改正を行った。

問 障害者就業支援組織やネットワークの新設について伺う。

答 先進事例を参考に、ハローワーク等関係団体と連絡調整を密にししながら企業の自主的取り組みを支援していく。

問 インターンシップ等による市職員としての雇用促進について伺う。

答 今年度、身体障害者1名を正規採用し、インターンシップや職場体験を経た知的障害者2名を常勤の臨時職員として雇用した。今後も鋭意取り組んでいく。



志村 富子議員
無党派

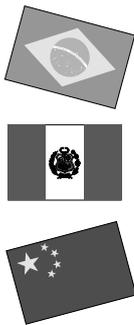
外国人居住者について

問 日常生活での支援として、どのようなことが行われているか。

答 ごみ分別収集のための五ヶ国語のパンフレットを配布。県情報誌や地震関連小冊子を希望者に配布。また、年間30回の「日本語講座」を開催。更に、第2・第4水曜日の「よろず相談」では、通訳を配置して相談を受けている。なお、県警察本部では、「子ども安全読本」を作成し、配布している。

問 外国人の小・中学生は45人であるが、就学年齢の子どものは、漏れなく就学の手続きが行われているか。

答 就学年齢の子どものは73人。就学の義務はないが、関係機関などと連携して、保護者に対して就学を奨励している。



問 外国人児童生徒の学生生活の一般的な状況、授業理解度などはどうか。

答 出席状況は、概ね良好。友達もでき言葉覚えようと努力している。活躍できる場面をつくり、学ぶ楽しさや味わえるよう努め、理解が遅れている子どもには、個別指導している。経費

の納入については、特に問題はない。

問 一人配置されている外国人児童生徒適応指導員の仕事、報酬はどうか。

答 個別指導を要する児童生徒15人を対象に、個別に毎週1時間ずつ学習指導を行い、学習の基礎基本の定着を図っている。報酬は1時間千円である。

市立総合病院の問題について

問 医師確保の今後の見通しはどうか。

答 公表された「研修医マッチング」の結果は1人だったが、マッチング外で2人、東大と浜松医大の附属病院から各2人で、合わせて、来年度は1年目の研修医が7人の見込み。新臨床研修医制度による研修医の後期研修が終了する平成21年度からは、医師を確保し易くなると予想される。しかし、産科、麻酔科等は厳しい状況である。

問 病院の未償還金のうち、利息の高いものについて借り換えによる繰上げ償還は可能か。

答 公的資金については、補償金免除繰上償還が行われることになり、当市でも全会計で実施する。病院会計では、平成1～3年に、利率5.5～6.6%で発行した起債(約6億円)が対象になる。

問 歯科口腔外科で使用していた機械器具の扱いはどのようにしたか。

答 薬事法も参考にして、資産について検討した結果、転売可能なものはなく、処分には費用がかかるので、ラッピングなどして保管することにした。

一般質問



西原 明美議員

藤和会

災害に強いまちづくりについて

問 防災訓練のマンネリ化について問題となっているが、12月の防災訓練において変更した点はあるか。



答 自主防災会において2つの防災会が合同で避難誘導・避難地入所受付の実施、また、5つの自主防災会が合同でトリアージ訓練を実施した。今後順次実施していく予定。

問 地域防災指導員になるための資格は何か。

答 地域の自治会から推薦を受けた方が市主催の地域防災指導員養成講習会に1年目の初級講座、2年目の中級講座、3年目の上級講座を受講する。

問 防災訓練は、被害を想定した上で、被害が大きいと想定されることに対して集中的に訓練することが、災害の被害を最小限にすることにつながると思うがいかがか。

答 第一に「地震発生時に役立つ訓練であるか」、第二に「防災知識が身につく訓練であるか」を基本として実践的な地震対応型の訓練を実施し、防災意識の高揚を図ることを目的としている。

問 地域防災訓練の市民参加状況はどうか。

答 参加率は20%で目標値より下回っているものの、毎年増加傾向にある。

問 災害意識の共有化を図り、災害向上訓練など様々な災害についての学習の機会が必要と考えるがいかがか。

答 被害を最小限に止めるにも、身の回りでのどのような災害が発生するか、あらかじめ予測しておくことは非常に大切なことであり、この為にもイメージトレーニングや図上訓練などは重要な訓練である。



問 藤枝中央小学校のPTC活動で大規模に行われた防災訓練はどのようなことがあったか、また他の学校区で実施することは可能か。

答 体験型メニューが多く、数万円の費用で約70名の参加による非常に有意義なものであった。他の学校においても今回の実績を参考にしていきたい。

問 災害時要援護者への支援としての取り組み状況はどうか。

答 本年度中に基本的な方針をまとめ、平成20年度の早い時期に「災害時要援護者避難支援プラン」の策定を予定。

問 当市が所有する公共建築物の耐震性能に係るリストで未だ未診断とあるが、診断の予定はいつごろか。

答 今年度末までに17箇所耐震診断を終了する予定で、残りの3箇所については、平成20年度に実施する計画。



山内 弘之議員

藤友松政会

更なる行財政改革の推進について

問 改革計画は、しっかりと実施されているか。新たな項目を加えたか。

答 18年度の効果額は計画を約3億円上回っており、計画どおり実施している。19年度から3項目を追加した。

問 全行政業務を対象として、サービスの質を含めてこの事業は市・民のいずれかがよいか市民の提案を積極的に求める方法の取り組み実施を求める。

答 市民からの直接的提案は実施している。今後とも市民の声を求めていく。

問 現在の市役所組織機構と職員配置数はコスト的に合理的か。

答 昨年策定した定員適正化計画に基づき鋭意、実施に努め、19年度は計画を上回る削減を実施している。

問 市立公民館には課長職の館長と、副館長が配置されており、瀬戸谷は副館長が2人いる。このような配置の現状を是正すべく、どう思うか。

答 職員の配置の見直しは職員適正化計画において検討していきたい。



路側帯の狭い道路

問 公民館長は、地域が推薦する人を嘱託館長とした当初の方法にすることを提案するが、どうか。

答 20年度から3館程度を提案のようにし、以後、順次実施していきたい。

地区行政センターを地域づくり・振興を主業務に

問 現在は、窓口業務の処理が主体だ。これを地域づくり・振興に関する諸事業を地域住民主導で協議・計画・実施の選択を目標とした業務の充実化を求めるが、どうか。

答 地域の人が主体となって、地域の課題や問題の解決に取り組み、地域振興を図ることは、市民と行政の関係から必要と認識している。

小さな仕事をコツコツと実施する予算等の配慮方について

問 道路にはカーブミラー、規制表示柵など数多くある。これらの安全点検補修の状況はどうか。

答 月4回の道路パトロールの実施と市民等の情報提供により、迅速な対応に努めている。国道県道も同様である。

問 市道の白線引きは、歩行者の安全を優先する引き方に改めるよう求める。

答 車優先から歩行者の安全を優先するよう一層の配慮をしていく。

問 県の管理である2級河川の除草作業は、高齢化や作業の危険性から、県の直接実施の要請方を求める。

答 12河川、総延長68kmあるが、乗用除草車の除草を県に要請していく。



山田 敏江議員

無党派

混合診療禁止に法的根拠がないと判示した07年11月7日東京地裁判決から何をくみ取るべきか

問 判決は、国が原則禁止と解釈する

根拠のいずれをも否定している。当病院の指定取消し処分も大きく揺らぐことになると思うが、所見を伺う。

答 個人が提訴したものであり、当病院の不適正請求とは内容が異なり、単純に比較できるものではない。

問 市は、国に対し一切抗弁しない姿勢に終始した。市の対処について、どのように総括するか。

答 保険請求が異なり、最高裁の確定判決が出ていない現状では、損害賠償請求はできないものと考ええる。

問 不法行為による損害賠償請求権の消滅時効は3年。今後担当部署を決めて準備すべきと思うが、どうか。

答 法的根拠がはっきりしていないことから、今後状況を見ていきたい。

ごみ焼却場の新たな計画とごみ減量化について

問 新ごみ処理施設の建設予定地の公表について伺う。

答 選定作業を進めているが、今年度中に志太広域事務組合の理事会に報告し、決定次第公表する。

問 17年度は7年目にして減量に転じたが、18年度は、燃えるごみが増えた。ごみが増えた原因は何か。

答 プラスチック類の分別が1年経過したが、意識の低下のもと、汚れの軽いものや雑紙も紙袋の不足で、燃やされていく。

高齢者にやさしい自主運行バスの充実について

問 20年4月から大手市立病院線及び藤枝忠兵衛線は自主運行バスに、中部国道六合駅行きは10月から、ジャンボタクシーに代替運行される。また、自主運行の南部循環線は市立病院行きになり、朝・晩も走るようになる。そこで、自主運行バス運賃を100円にできないか。

答 平成18年度は、81万円余の赤字のため、20年度からも200円とする。

問 13枚2千円の回数券制度を作り、利用を高めることはどうか。

答 しずつつジャストラインへ委託しているため、利用可能なパサーカードを使ってほしい。

問 バスが走らない地域には、ジャンボタクシーあるいはバスを小型化するなど今後の方向性を伺う。

答 藤枝駅光洋台線はジャンボタクシーで実証実験を行う予定である。バスの小型化は、今後北部路線の再編の選択肢の一つとして考えていきたい。



ジャンボタクシー



杉村 基次議員

藤友松政会

小児科医療の現状と対策について

問 総合病院と救急医療センターにおける小児科医療の実態、特に夜間の小児科救急医療の状況について伺う。

答 総合病院の入院は1日約35人、夜間救急は約12人で、医師会の協力による夜間診療や当院小児科医師による休日救急を行っており、他院に比べ充実している。



志太医師会による夜間小児救急

問 救急医療センターでは年間2千人程度で推移しており、減少傾向にある。

問 医師不足が懸念される中で、総合病院の小児科医師の状況について伺う。

答 常勤医師9人で、新生児集中治療室の当直もあり、体制は充実している。

問 少子化対策としての小児総合医療が必要とのことだが、小児総合医療をどのように捉えているか伺う。

答 小児に関する専門診療科及び全体的なサポートの体制を指すと考える。

障害者就労支援について

問 障害者の就労支援施設と施設利用者の就労状況について伺う。

答 就労移行支援事業所と就労継続B型事業所で計5箇所あり、総定員が119人で定員には余裕がある。作業は週5日を基本とし、概ね9時から16時で、十分な補償を行うために賠償と傷害の保険に加入している。

問 施設に勤務している指導員やボランティアの状況について伺う。

答 指導員は法人規定に基づいた待遇の勤務で、ボランティアには家族や民生委員等一般市民の協力がある。10年以上活動されている方もいる。

問 施設に仕事を提供している企業の状況と作業に対する反応について伺う。

答 10年以上提供している企業もある。品質上も問題ないなど好意的に受け入れられていると理解する。

問 障害者雇用で明石市では市役所内に小規模作業所を設けるなどの事業を展開しているが、当市では如何か伺う。

答 市役所が直接実施する意義は大きい。当市でも障害者雇用促進関係課長会議を中心に今後研究していく。

都市型洪水対策について

問 宅地開発による治水環境の整備の遅れから下流での洪水被害が発生し、深刻化している中で、貯留浸透施設等の対策が必要と思われるが如何か。

答 治水対策として、河川改修や雨水調整池の設置をし、雨水浸透施設として透水性舗装や浸透性側溝など水循環を考慮した整備を総合的に行っていく。

一般質問

〔無党派〕とは会派に属さない議員です。〕

本会議での討論

藤枝市下水道条例の一部を改正する条例

反対 下水道事業の資本費の大半が、一般会計繰入金で賄われていることを理由に、来年4月から下水道料金を平均16.8%引き上げることに対して、構造改革のもとで収入減少と増税で、苦しい市民生活を、さらに圧迫するものであること。下水道事業は多額の投資を必要とするもので、その多くは借入金であり、資本費の大半を一般会計繰入金で賄うことは、わかってきたことで、これを値上げの理由とすべきでない。以上のことから、反対する。

賛成 下水道使用料の改定に当たっては、下水道使用料等審議会の答申を受けており、内容も厳しい財政状況と下水道事業経営の中で、一般会計繰入金を極力抑えるための適正な料金改定措置であること。他の処理方法と比較しても、改定料金は安価であること。また、当局には利用者の理解を得るため、広報等により周知に努め、一層の事業の合理化と効率化を図ることを要望し、賛成する。

藤枝市郷土博物館、藤枝市文学館、国史跡志太郡衙資料館及び史跡田中城下屋敷の指定管理者の指定について

反対 民間企業を指定管理者として、施設の管理運営を委ねることは、単なる経費削減を狙うものであり、施設本来の機能をさらに發揮するものとは言いがたく、市民の期待に逆行する恐れが強い。以上のことから、反対する。

賛成 応募のあった4団体について、市民を含む選定委員会において、施設の現状と課題の把握状況及び対応策・管理運営の基本方針・運営管理方法等5つの選定基準により審査された。その結果、安定的な管理運営に必要な物的・人的能力を有し、経費についても最も安価であった団体を指定しようとするもので、市民サービスの向上や施設の効果的・効率的運営が期待できる。今後は事業計画が確実に履行されるよう当局の指導監督を要望し、賛成する。

11月定例会で審議された議案

◎全会一致で原案可決・承認
◎賛成多数で原案可決

- ◎専決処分の承認を求めることについて（藤枝市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例）
- ◎平成19年度藤枝市一般会計補正予算（第3号）
- ◎平成19年度藤枝市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- ◎平成19年度藤枝市公共下水道事業特

別会計補正予算（第2号）

◎平成19年度藤枝市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）

◎平成19年度藤枝市介護保険特別会計補正予算（第3号）

◎平成19年度藤枝市水道事業会計補正予算（第1号）

◎藤枝市議会議員及び藤枝市長の選挙における選挙運動用自動車の使用及び選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例

◎藤枝市個人情報保護条例の一部を改正する条例

◎藤枝市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例

◎藤枝市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◎藤枝市男女共同参画推進条例

◎藤枝市地区計画区域における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例

◎藤枝市大規模集客施設制限地区建築条例

◎都市計画法施行令第31条ただし書の面積を定める条例を廃止する条例

◎藤枝市手数料徴収条例の一部を改正する条例

◎藤枝市下水道条例の一部を改正する条例

◎藤枝市郷土博物館、藤枝市文学館、国史跡志太郡衙資料館及び史跡田中城下屋敷の指定管理者の指定について

◎建設工事変更委託協定の締結について（藤枝市公共下水道根幹的施設の建設工事）

2月市議会定例会

2月市議会定例会は、2月20日から3月21日までの31日間の会期で開かれる予定です。

2月20日（水）
本会議1日目 議案上程
議案質疑
（補正予算等）

3月6日（木）
本会議2日目 採決
（補正予算等）

3月7日（金）
本会議3日目 一般質問
代表質問
（補正予算等）

3月10日（月）
本会議4日目 一般質問
議案質疑

3月12日（水）
3月13日（木）
3月21日（金）
本会議5日目 採決

※議員の会派名は、1月1日現在のものです。

市議会広報委員会

問い合わせ先 議会事務局
藤枝市岡出山1-11-1
電話 643-3111 内線(512)